

グルジア政治・経済 主な出来事

【2014年7月21日～2014年7月27日】

〔当地報道をもとに作成〕

平成26年7月30日

在グルジア大使館

主な動き

1. アブハジア・南オセチア

【アブハジア】

▼「大統領選挙」への国外からの投票(24日)

・「アブハジア中央選挙委員会」は、8月24日に予定されている「大統領選挙」の国外の投票所を、モスクワ、チエルケスク、イスタンブルの3か所に設置すると発表。

2. 外 政

▼英貴族院の議員グループがグルジアを訪問(21日～24日)

・英貴族院の議員グループがグルジアを訪問。ウスパシヴィリ国会議長、パンジキゼ外相、アラサニア国防相、ペトリアシヴィリ欧州・欧州大西洋統合担当国務大臣、国会議員らと会談し、バトウミで行なわれた Visegrad グループの国際会議「グルジアの欧州への更なる歩み」に出席した。

・「パ」外相との会談では、英議員らはグルジアによるEU・NATO加盟の追求、グルジア・露関係、アブハジアおよび南オセチアをめぐる状況、反差別法の採択などに関心を示した。ウクライナ情勢についても話し合われた。

▼パンジキゼ外相が第5回東方パートナーシップ外相会合に出席(22日)

・ブリュッセルで行なわれた第5回東方パートナーシップ外相会合にパンジキゼ外相が出席。アシュトン EU 外務・安全保障政策上級代表が議長となり、昨年のヴィリニウス首脳会議から現在までに達成された進展、今後の展望について議論。グルジア代表団は、連合協定を迅速に実施し、2015年5月のリガでの首脳会議までに具体的な成果を示す用意があることを表明した。EU側は、グルジアとの査証自由化行動計画の第一段階が完了したことを歓迎。

▼ウスパシヴィリ国会議長がイスラエルを訪問(23日)

・「ウ」国会議長はイスラエル国会で演説し、イスラエルのリヴリン新大統領(24日に就任)、エデルシュテイン国会議長、国会議員らと会談した。イスラエル側はハマスの紛争が深刻化するなかでの「ウ」国会議長の訪問を高く評価した。

・リヴリン新大統領との会談では、両国関係、イスラエル情勢、グルジア・露関係などについて話し合われた。

▼グルジアがポルトガル語諸国共同体の準加盟国となる(23日)

・第10回ポルトガル語諸国共同体(CPLP)首脳会議が

東ティモールのディリで行なわれ、ジャラガニア外務次官が出席。グルジアに準加盟国の資格が与えられた。他の準加盟国はトルコ、日本、ナミビア、モーリシャス、セネガル。2012年に準加盟国の資格を申請して以降、グルジアは、トビリシ国立大学にポルトガル語・文化センターを設置するなど、準加盟国の要件を満たすべく措置を講じてきた。

▼NATO議員会議の代表団がグルジアを訪問(24日～25日)

・ベイリーNATO議員会議議長率いる代表団はガリバシヴィリ首相、ウスパシヴィリ国会議長、ペトリアシヴィリ欧州・欧州大西洋統合担当国務大臣、ザルカリアニ外務次官らと会談。

・「ザ」外務次官との会談では、次のウェールズでのNATO首脳会談の見通し、地域情勢などについて議論。ウクライナ情勢を受け、地域の安全保障を強化する措置の必要性が強調された。グルジアのNATO加盟に対する議員会議の強い支持を再確認。

▼ブルガリア国会がEUとグルジア、モルドバ、ウクライナの連合協定を批准(25日)

3. 内 政

▼内閣改造(21日)

・ガリバシヴィリ首相が7名の閣僚の交代を発表。うち2名がポストを移り、5名が内閣を外れる。

・スバリ矯正大臣が国内避難民大臣に、ホクリシヴィリ地域発展インフラ大臣が環境・天然資源大臣に指名された。ダラフヴェリゼ国内避難民大臣とゴガラゼ環境・天然資源大臣のほか、ピピア農業大臣、オディシヤリア文化・遺跡保護大臣、スルグラゼ在外グルジア人担当国務大臣が内閣を外れる。

・「ガ」首相は、この交代の目的は「政府の効率性を高める」ことであるとして、「2回の選挙を実施し、EUとの連合協定に署名した今、我々には更に精力的に働くために新しい勢いが必要である」と述べた。

・翌22日、「ガ」首相は文化・遺跡保護大臣以外の4名の閣僚候補者を発表。矯正大臣にはムゲブリシヴィリ・クヴェモ・カルトリ地方知事。農業大臣にはダネリア第一農業次官、地方発展・インフラ大臣にはシャヴリアシヴィリ地方発展・インフラ省道路局長、在外グルジア人担当国務大臣にはダウンバゼ同国務副大臣が指名された。

・23日、新たな文化・遺跡保護大臣として、ギオルガゼ「Eastern Promotion」社共同創設者・社長が指名された。

・23日、「ガ」首相がマルグヴェラシヴィリ大統領に新内

閣の名簿を提示。翌 24 日、「マ」大統領が署名し、名簿を国会に提出した。

・25 日から 26 日にかけて国会で首相および各大臣と議員らとの討論が行なわれ、26 日、国会は 89 名の賛成で新内閣の信任を決定した。野党「統一国民運動」の議員は、採決の前に議場を退席した。

▼アラサニア国防相が国防予算の増額を要求(25日)

・国会での討論で、「ア」国防相は、「地域的な脅威、とくにウクライナでのロシアの侵略的行為を踏まえ、グルジアのみならず NATO 加盟国を含むその他の欧州諸国においても国防予算の増加は優先課題の一つになっている」として、2015 年予算における国防関連予算の 11% の増額を求めた。

・2013 年および 2014 年予算では国防省への配分は 660 百万ラリ。2008 年以降ほぼ毎年減少を続けている。

・「ア」国防相はアハルカラキに新たな軍の訓練所を建設することが計画されていると述べた。

▼サーカシヴィリ前大統領に対する検察への出頭命令(27日)

・検察は「サ」前大統領に対し、28 日午前 11 時までに尋問のために検察に出頭するよう命令。いかなる件に関連

するものであるのかは明らかにしていない。

・検察は 2014 年 3 月にも「サ」前大統領に対し複数の件に関して尋問のための出頭を命令しているが、その際、2013 年 11 月以来国外に滞在している「サ」前大統領は出頭を拒否した。

4. 経 済

▼2014年上半期の貿易収支(24日)

・国家統計局が発表。貿易額 5,448 百万ドル (前年同期比 16%増)、輸出額 1,419 百万ドル (同 15%増)、輸入額 4,028 百万ドル (同 16%増)。貿易収支は 2,609 百万ドルの入超。

・貿易相手国の内訳は CIS 諸国 31%、EU 諸国 26%、その他 42%。国別では貿易額の多い順にトルコ、アゼルバイジャン、中国、ロシア、ウクライナ、アルメニア、米国、ドイツ、ブルガリア、日本。日本は第 7 位の輸入相手国 (輸入額 157 百万ドル)。

▼2014年のGDP成長率の予測(24日)

・ハドゥリ財務相は、国会での答弁で、2014 年上半期の GDP 成長率は財務省の計算では 6%を越えているとして、2014 年の実質 GDP の成長率が当初の予測の 5%を越える可能性があると言。また、2014 年上半期で、年間の予定歳入の 43.6%に相当する歳入があったと述べた。